



と国際交流を行っています

問 伊奈庁舎地域推進課 (内線1300)



カルカル市・桃園市との関わり

カルカル市

昨年 11 月 24 日、本市とフィリピン共和国カルカル市が友好都市協定を結びました。

本市では幼少期からの英語教育に力を入れており、公立幼稚園 3 園にフィリピン出身の ALT (外国語指導助手) を配置しています。フィリピンは、フィリピン語と英語を公用語としており、その英語力はアジア第 2 位!

フィリピンでは、大人から子どもまでほとんどの国民が英語を話せる歴史があります。カルカル市はセブ島の中心に位置し、公立小学校のほか公立の高校・大学を備えるなど、教育環境に優れた都市です。カルカル市の教育を本市の英語教育の参考にするため、交流を深めることを目的に両市間において協議を進めていました。

協定では、英語教育の充実や異文化コミュニケーションの推進、多分野における人材交流を目的としています。

今後は、カルカル市の学生との WEB 交流のほか、教育以外の分野も含め総合的な人材交流を行っていく予定です。

桃園市

本市と台湾の関わりは、コロナ禍における国内でのマスク不足の際、台北駐日経済文化代表処を通じて、台湾から多くのマスクを寄贈いただいたことが始まりです。

また、筑波郡板橋村 (現つくばみらい市) 出身で、「種なしブドウ」の誕生に尽力した黒沢英一氏 (1894 ~ 1953) は、台湾総督府農事試験場に勤務していた際、「ジベレリン」と呼ばれる植物ホルモンを世界で初めて発見しました。このジベレリンによって、日常で食される「種なしブドウ」が後に誕生しました。

こうした台湾との縁もあり、教育・文化・経済など多分野における台湾との交流を念頭におき、台湾で平均年齢が一番若く、人口増加率も高い桃園市へ昨年 9 月に訪問しました。

桃園市は、教育環境の整備や、子どもたちの能力育成などに力を入れているだけでなく、工業エリアの年間生産額が台湾一のほか、農業では、お米をはじめとする特産物が豊富にあるなど、多分野での発展が著しい市です。今後は、本市で開催している米コンテスト、スポーツ、少年野球などの交流について、協議を重ねていきます。



各市の特徴



- ・台湾で平均年齢が一番若い
- ・人口増加率が一番高い
- ・17 校の大学・専門学校が優秀な科学技術人材を育成
- ・毎年、現地産業の新卒採用は 23,000 人

- ・公立小学校 25 校、公立中学校および高等学校 16 校に加え、カルカル大学があり、教育環境が充実
- ・農業が中心であり、市の面積の 80% を平地が占め、米作りが盛ん

- ・お米や桃、キノコやお茶などが特産物
- ・なかでもお米は「桃園米」と呼ばれ、市内の各地区で特徴の異なるさまざまな桃園米が作られているほか、本市と同様にお米を品評する「米コンテスト」が開催されている。

学校給食に台湾バナナを提供

昨年 12 月、市内の市立・公立中学校の学校給食に台湾バナナを提供しました。日台共栄首長連盟茨城支部を通じた取り組みでしたが、今後は桃園市と本市で同様の取り組みを協議していきます。



視察の様子



Carcar Central Elementary School (幼稚園) での授業の様子

英語教育の充実や異文化交流などを目的とした友好都市協定を締結

今後の交流に関する意見交換



幼稚園から高校まで、**すべて英語**で学習!

今後も市の発展につながる交流を深めていきます♪

